

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
Ver.13	動作環境	機能変更	必要となる .NET Framework の条件を .NET Framework 4.8 に変更しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	-	
	Windows OS	サポートOS追加	サポートOSとして次を追加しました。 ・Windows 11 ・Windows Server 2022	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	-	詳細は製品同梱の Readme.txtを参照ください。
	システムリカバリ	サポート製品追加	システムリカバリ機能にて、Microsoft Office 2021 のアクティベーションを実施できるようにしました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 上、特上	-	
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて運用中、修復対象領域に存在する読み取り専用属性のファイル/フォルダに対し、delコマンドやrdコマンドによる削除指示を実行すると、本来のOS動作であればアクセス拒否のエラーが返されるが、これがアクセス拒否とならずに削除できてしまう。 ※PC再起動による瞬間復元では元に戻る。	OS標準の動作と同じになるようプログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードから修復無効モードへの切り替え指示を出した際に、その直後のPC起動からPC終了までの間、瞬快のログファイルである skfsd.log が1分に1MB以上のペースで肥大化する。 ※もう一度PCを再起動するとログは出なくなる。 ※Windows Search サービスが停止している場合は発生しない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	ログのファイルサイズが大きくなった場合でも、次回修復モードに切り替えた際に古い行が削除され、10MB以下に縮小されます。
	瞬間復元ドライバ	復元タイプをパーティションにした場合、クライアントPCのプロパティにてシステムドライブの使用量を表示する仕組みとなっているが、実際の使用量に変化があってもプロパティ表示が変わらない。 ※ファイルフォルダ単位の更新モードでも同様。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	PCの稼働中、瞬快のプロパティ表示にて表示されるディスク使用量が、PC起動時の使用量のまま更新されない。 また、ディスクの空き容量が閾値を下回った場合もPC起動時のみ警告が表示される。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	瞬快クライアントがアラートを検知したとしても、クライアントPCに表示されたアラート通知への応答操作をしない限り、アラート情報が瞬快サーバへ通知されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	機能追加	瞬間復元機能の簡単設定において、Microsoft Edge の「お気に入り」を修復対象外に設定できるようにしました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	-	
	クライアントインストール	クローニングツール等により、ディスク内先頭パーティションの開始オフセットがOS標準値より変更され、これが32,256バイト未満とされてしまった環境の場合は瞬間復元機能を有効にできないが、瞬間復元機能を有効にするための指示を出すまで、その状態に気付くことができない。	【瞬快クライアント機能の通常インストール時】 開始時に警告メッセージをダイアログで表示するように改修しました。 【瞬快クライアント機能のサイレントインストール時】 メッセージは表示せず、サイレントインストールのログに警告内容を記録しインストールは継続させるように改修しました。 (サイレントインストール後の動作モードは修復無効モードになります)	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	-	
	ツール	サイレントインストール定義ファイル作成ツールの操作において、定義ファイルの新規作成時に「瞬間復元機能なし」を選択して操作を進めると、次のメッセージ表示にて定義ファイルの作成に失敗する。 「定義ファイルの作成中に例外が発生しました。 詳細:指定されたキーはディレクトリ内に存在しませんでした。」	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	サイレントインストール定義ファイル作成ツールの起動時に、ラジオボタンで「既存の定義ファイルを編集する」を選択し、Toolフォルダにある BzAgSinst.iniを選択してから作成を進めてください。	
	リモート画面操作	「単一PC操作」をスタートメニューもしくは起動用コマンドから起動する場合、内部処理の問題により起動処理途中で停止することがあり、この状態になると通常の操作では終了することも起動しなおすこともできなくなる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	問題が発生した場合は、コンソール側のコンピュータを再起動してください。	
	リモート画面操作	遠隔操作中にコンソール側にてCtrl+Alt+Delキーが押下されOSの処理が中断された場合、OSの処理が回復された後には、通常であればコンソールからCtrl+Alt+Delキーは使えない旨のメッセージが表示されるだけとなるが、コンソール側からのクライアントキー操作ができなくなるとともにクライアントPC側でのキー操作もできなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	問題が発生した場合は、クライアントPC側にてCtrl+Altキーを押してください。	
	リモート画面操作	Windows8.1環境にコンソールをインストールした場合、遠隔操作中にコンソール側のWindowsOSのロックをすると、ロック解除後に遠隔操作を継続することができない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	問題が発生した場合は、リモート画面操作のプログラムを起動しなおしてください。	
	リモート画面操作	ファイル回収機能にて「回収したファイルの保存先」にUNCパスを指定すると、先頭文字の¥¥を除いたパスを指定したことになる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	ネットワークドライブの割り当てなどにより、UNCパスを使わないようにしてください。	
	リモート画面操作	コマンド実行の機能において、コマンド文字列の左端と右端の両方をダブルクォーテーションにした場合、次回コマンド実行時に過去履歴を見ると、左端と右端のダブルクォーテーションが削除されている。 ※左端と右端の片方だけをダブルクォーテーションにした場合は削除されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	瞬快コンソールにて「機器のプロパティ」のコメント欄に、半角のカメラ記号もしくは改行を入力すると、システムリカバリコンソールの起動に失敗する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 上、特上	既存PCのプロパティを変更した場合は元に戻ってください。 新規PC追加時にプロパティ入力した場合は当該PCを削除してください。	

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	システムリカバリ	瞬快コンソールの[機器管理]-[機器操作]-[メンテナンス]のタブメニューを開き、100台以上の機器情報をエクスポートした場合、次の情報が最大100台分の出力となる。 ・システムリカバリの機器情報 PC管理情報.sro ・システムリカバリの無線LAN情報 PC管理情報.wlan	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.12系 【グレード】 上、特上	なし	
Ver.13a	クライアント	機能追加	瞬間復元機能の簡単設定において、Wi-Fiの接続情報を修復対象外に設定できるようにしました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	-	
	システムリカバリ	機能追加	複数のディスクが搭載されたPCに対する、ディスクイメージ取得・配信に対応しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 上/特上	-	
	システムリカバリ	機能追加	拡張サービスにて次の動作となるサービスを作成できるようにしました。 ・ディスクイメージ取得の際に内蔵ディスクから起動させない ・ディスクイメージ配信の際に内蔵ディスクから起動させない	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 上/特上	-	
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モードにて、Windowsにプログラムのインストールを行った場合、スタートメニューに登録されたプログラムのショートカット類が、ログインしなおさないと表示されない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	Mastercam 2022 がライセンス認証されているPCにてファイルフォルダ単位の修復モードにすると、C:\Windows のフォルダが、0バイトのファイルに見えてしまう。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	起動ディスクの先頭バージョンの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCにて、動作モードを修復モードに切り替えようとすると、旧バージョンではモード切り替えに失敗することがあり、場合によってはWindowsが起動しなくなる恐れがあるため、Ver.13初版では修復モードにできないよう制限がかけられている。	起動ディスクの先頭バージョンの開始オフセットが32,255Byteより小さいPCでも問題が発生しないよう仕様変更し、制限も解除しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	クライアント	ファイルフォルダ単位の修復モードの場合、2022年度版のAutodesk社の製品は、ライセンス認証が正常動作せず使用できない。	2022年度版Autodesk社製品のライセンス認証処理に対応しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	USBリカバリのディスクイメージ取得画面にて2本目のディスクを選択した場合、選択したディスクの空き容量を表示する際の描画処理に問題があり、状況によっては潰れた文字が表示される。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 特上	なし	
Ver.13b	リモート画面操作	瞬快クライアント機能をインストールしたWindows 8.1のPCをキオスクモードにて利用した場合、指定したアプリが起動された後に、一瞬だけ画面がデスクトップに切り替わるような挙動をする。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13初以前 【グレード】 共通	なし	
	Windows OS	サポートOS追加	Windows 11 バージョン 22H2 に対応しました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 共通	-	Windows 11 バージョン 22H2 の環境では、Ver.13a以前の瞬快は正常動作しません。
	瞬間復元ドライバ	瞬間復元の動作モードを修復無効モードに切り替える際、元の状態が次のいずれかである場合に、稀に 0x1E のSTOPエラーが発生する。 ・更新モード ・復元タイプがパーティション単位の修復モード	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	OS起動時のPC負荷が非常に高いクライアント環境の場合、OSのサービスコントロールマネージャーによるリモート画面操作機能のサービス開始処理においてタイムアウトが発生し、当該サービスの状態が実行中にならない。	1分間隔でリモート画面操作機能のサービスの状態をチェックし、実行中となっていない場合は開始を試みるようにしました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 共通	なし	
	スケジューラ	コマンド実行のスケジュールを参照作成した場合、「アクティブなセッションで実行する」のオプションの設定内容が引き継がれない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリ	USBリカバリ機能でのクライアントPCリカバリを実施する際、サービス適用先バージョンの選択を標準設定の「自動」からバージョン番号に変更した場合、「サービスのコピーに失敗しました。」のエラーとなる。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13a以前 【グレード】 特上	なし	
Ver.13c	メール送信	機能改善	メール送信機能において、TLS1.2とTLS1.3に対応しました。	【版数】 Ver.13b以前 【グレード】 共通	なし	
	システムリカバリサーバインストール	インストールに必要なフォルダが欠落している状態にてインストールが開始された場合には、インストール開始時にエラー表示されなければならないが、エラー表示されずに最後まで処理が進み、正常終了と表示してしまう場合がある。	システムリカバリサーバのインストール時の事前チェックにおいて、必要なフォルダのチェック処理を強化しました。	【版数】 Ver.13b以前 【グレード】 上/特上	なし	
	クライアント	瞬間復元ドライバに関連するログが500MB程度まで肥大化する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13b以前 【グレード】 共通	なし	
	ツール	USBリカバリ用のブートメディアをコピーするツール提供する。	瞬快ToolにUSBブートメディアコピーツールとしてSkBootMediaCopy.exeを加えました。	【版数】 Ver.13b以前 【グレード】 特上	なし	

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	瞬間復元ドライバ	ファイルフォルダ単位の修復モード中におけるファイル移動処理において、移動先のパスの指定に ¥SystemRoot と表現するOS内部で使われる特殊なシンボリックリンクのパスの指定がされると、移動処理に失敗する。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13b以前 【グレード】 共通	なし	
	瞬間復元ドライバ	EFIシステムパーティションもしくはシステムで予約済のパーティションの断片化が進行している場合、修復モードへの変更処理が失敗する場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13b以前 【グレード】 上ノ特上	なし	
	瞬間復元ドライバ	レガシーブートのWindowsにて瞬快を修復モードに切り替えると、Windows起動前の黒画面状態から、起動処理が進まなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13a Ver.13b 【グレード】 共通	なし	
	瞬快製品コンソール	瞬快コンソールからクライアントPCへの命令発行時に表示される処理中画面の「処理が終了したときに自動的にウィンドウを閉じる」のチェックボックスの状態が保存されない場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13b以前 【グレード】 共通	なし	
	リモート画面操作	クライアント機能のインストール中に、リモート画面操作機能のサービスの登録を行う処理にてエラーが発生し、インストールが中断される場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13b以前 【グレード】 共通	なし	
	ウイルス対策ソフト連携	クライアント機能のインストール時に「瞬間復元機能なし」でインストールした場合、コンソール側に表示される「ウイルスパターン」列に、パターンファイルのバージョンが表示されず、ハイフンの表示となってしまう。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13b以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.13d	クライアント	機能追加	ファイル・フォルダ単位の修復モードにてOneDriveを利用する場合に必要な修復対象外フォルダの指定が、瞬間復元の簡単設定から指定可能になりました。 指定するには、瞬間復元の簡単設定の画面から「Microsoft OneDrive情報」のチェックボックスをチェックしてください。	【版数】 Ver.13c以前 【グレード】 共通	ー	
	クライアント	機能追加	ファイルフォルダ単位の修復モードにおける修復対象外設定が標準設定のままだでも Systemwalker Desktop Keeper および Systemwalker Desktop Patrol と共存できるようになりました。	【版数】 Ver.13c以前 【グレード】 共通	ー	Systemwalker Desktop Patrolにて以下の機能を使用する場合は、修復無効モードに切り替えて実行する必要があります。 ・ファイル配信 ・ソフトウェア配信 ・パッチ配信 ・アップデータ配信
	瞬間復元ドライバ	サポートストレージ追加	UFS(Universal Flash Storage)など、論理セクタサイズが4096バイトのストレージに対応しました。	【版数】 Ver.13c以前 【グレード】 共通	なし	論理セクタサイズが4096バイトのストレージでは、復元方式が自動的に「機能制限方式」に設定されます。
	瞬間復元ドライバ	Windowsサンドボックスを起動する際、ファイル・フォルダ単位の修復モードの場合は、修復無効モードと比較し、数倍の起動時間を要してしまう。	プログラムを改修しました。 改修効果を出すためには、次のフォルダを修復対象外に設定する必要があります。 C:\ProgramData¥Microsoft¥Windows¥Containers¥	【版数】 Ver.13c以前 【グレード】 共通	なし	
	WindowsUpdate連携	DELL社製PCの一部の機種では、WindowsUpdate連携を開始してから数分経過後に次のエラーが必ず発生しWindowsUpdate連携処理が終了してしまふ。 「WindowsUpdate処理実行中にエラーが発生しました。(ErrorCode=177)」	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13c以前 【グレード】 共通	なし	NVMe接続のRST (Intel Rapid Start Technology) 機能を有するストレージを搭載したDELL社製のPCでのみ発生します。
	サーバインストール	瞬快サーバ機能の版数アップ・レベルアップを実施時に、瞬快サーバ機能のサービスプログラムである「BzSwWatch」サービスが削除されてしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13c以前 【グレード】 共通	なし	
	利用情報収集	電源オンのイベント情報には、瞬間復元の動作モードが付加されて記録されるが、この動作モードは次回電源オン時の動作モードとなっている。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13c以前 【グレード】 共通	なし	
	利用情報収集	インベントリ情報としてのソフトウェア情報の収集において取得されないソフトウェアがある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13c以前 【グレード】 共通	なし	
Ver.13e	システムリカバリ	サポートストレージ追加	UFS(Universal Flash Storage)など、論理セクタサイズが4096バイトのストレージ環境で、ディスクイメージ取得ノ配信機能が動作するようになりました。	【版数】 Ver.13d以前 【グレード】 上ノ特上	ー	
	システムリカバリ	サポートストレージ追加	UFS(Universal Flash Storage)など、論理セクタサイズが4096バイトのストレージ環境でUSBリカバリ機能が動作するようになりました。	【版数】 Ver.13d以前 【グレード】 特上	ー	
	資源配付	スケジュール設定を行った資源に対し、クライアントPCの割り当てを行っているにもかかわらず、配付指示が実行されない場合がある。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13d以前 【グレード】 特上	なし	
Ver.13f	システムリカバリ	システムリカバリ機能で利用可能な Windows ADK の追加	Windows PE ブートエージェント作成の際に利用可能なADKとして、「Windows ADK 10.1.26100.2454 (2024年12月)」を追加しました。	【版数】 Ver.13e以前 【グレード】 上ノ特上	ー	これにより、Windows 11 24H2 環境での Windows PE ブートエージェント作成が可能となります。
	システムリカバリ	システムリカバリ機能におけるサポートクライアント機種の追加	「富士通法人向けパソコン用ドライバセット」を最新化し、2024年下期モデルまでの富士通法人向けパソコンに対応しました。	【版数】 Ver.13e以前 【グレード】 上ノ特上	ー	
	システムリカバリ	Microsoft社製「Office 2024」のアクティベーション対応	システムリカバリ時にOfficeアクティベーションを実施する機能において、「Office 2024」のアクティベーションに対応しました。	【版数】 Ver.13e以前 【グレード】 上ノ特上	ー	「Office 2013」のアクティベーションは、本版数より実行できなくなります。

製品版数	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	WindowsUpdate連携	仕様変更	Windows Update連携のスケジュールの新規作成画面において、Windows Update適用中にキーボード、マウスによる操作を禁止するかどうかの初期値を、「禁止する」から「禁止しない」に変更しました。	【版数】 Ver.13e以前 【グレード】 共通	-	
	瞬間復元ドライバ	EFIシステムパーティションが、ディスク内での9番目以降のパーティションに作成されている環境では、修復モードへの変更ができない。	プログラムを改修しました。	【版数】 Ver.13e以前 【グレード】 共通	なし	